

そのような子供のかわいらしさは、多くの人が共感することです。まったく関係ない子供であっても、かわいらしい行動やことばを見聞きすると、だれもが「かわいいなあ」と思うでしょう。

ですが、このみことばが語っているのは、だれにも共通するものではありません。冒頭に「わたしの目には」とありますが、わざわざ「わたしの目には」ということは、「わたし以外の目には」また違う見え方をしている、具体的に言うなら、高価でなければ、尊くもないものとして見えているということになります。このみことばで語られている「あなた」は、おそらくほとんどの人の目には高価でも尊くもないのです。

そんな「あなた」を神は「高価で尊い」と見てくださいます。ほとんどの人にとって高価でも尊くもなくとも、客観的に見て何ら評価するところがなかったとしても、かえってマイナス面ばかりだったとしても、自分で自分を見てどうしようもないと思えてしまっても、神は「ほかの人の目から見てどうであっても、あなた自身の目を見てどうであっても、**わたしの目には、あなたは高価で尊い**」と語っていただきます。そのように語るだけではなく、実際に私たちを高価なもの、尊いもの、大切に大事なものと見ていてくださいます。